

高齢者ケアサービス論

担当教員 生野 繁子

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 変化する日本の高齢者ケアサービスのあり方を再確認し、看護福祉・健康支援の課題を探る。
2. 少子高齢社会と人口減少の進展に伴う地域包括ケアシステムと、高齢者ケアサービスのあり方を展望する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入 授業計画の説明・日程調整・受講生の自己紹介・高齢者ケアサービスに関する経験など
2	ケア関連領域での高齢者ケアに関する教育の変遷
3	国が進める地域包括ケア
4	介護保険法の理念・各国の制度の展望
5	介護保険法の概要・改正点
6	老人福祉法によるケアサービス
7	医療保険によるケアサービス
8	自治体独自による高齢者ケアサービス
9	地域密・小規模多機能高齢者ケアサービス
10	高齢者ケアサービスを支える財源
11	公的年金制度と高齢者の生活
12	介護保険制度によるグループホーム・小規模多機能施設見学研修
13	自治体サービスによるグループホーム見学研修
14	ケア実践者のNPO法人によるデイサービス等の施設見学研修
15	高齢者ケアサービスにおける看護福祉の課題についてデスカッション

【履修上の注意事項】

1. 履修者数により、講義の展開順序に変化もありうる。
2. 履修する院生は、それぞれのテーマに沿ってレジュメやレポートを作成しディスカッションする。
3. 施設見学研修は履修登録確定後に日程調整する。

【評価方法】

提出したレジュメやレポート50%、発言内容50%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

1. 最新版「高齢社会白書」「介護六法」「社会福祉六法」等。
2. 他、必要時に随時紹介する。

ヘルスケアシステム論

担当教員 徳永 淳也

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目（精神保健学専攻）

【授業のねらい】

国民医療費の高騰と情報化の推進などを背景として、保健・医療・福祉サービスは複雑化、高度化が顕著であり、医療（健康）情報の共有とサービスの質的保証の重要性が再認識されている。本論では、ヘルスサービスの各領域における質的保証と情報管理に関する具体的な課題提示から出発し、それらの背景にある特徴的な問題理解のための視点を欧米の先行研究レビューを踏まえて明らかにする。

【授業の展開計画】

質評価の重要なアウトカム指標である顧客満足、提供者の職務満足等のサービスの各種評価指標や業務ストレス、組織文化等の質に直接影響をおよぼすとされている指標に関して、グループ討議や論文抄読等を通じて理解を深め、実践的問題解決能力を習得する。講義は、概ね以下の内容に沿いながら進められるが、当該内容に関する研究論文の発表を通じて、批判的な研究評価法等についても習得をめざす。

1. 医療と社会、医療システムの評価
2. 医療小史と法制度からみた医療システム
3. 医療と経済、市場機構
4. 供給者誘発需要と代理関係
5. 保険の理論と健康保険
6. 産業としての医療
7. 医療の経済的評価
8. 医療における質評価と管理
9. 研究事例1: 医療の質評価とは
10. 研究事例2: 職務満足度と患者満足度-職種、職階、疾病による特徴-
11. 研究事例3: 医療従事者の職務環境と患者アウトカムの関連
12. 研究事例4: 医療の質は患者アウトカムに影響を与えるか
13. 研究事例5: 医療保険支払い方式が患者アウトカムに与える影響
14. 研究事例6: 医療従事者のマンパワー充足と医療の質
15. 研究事例7: 医療施設の組織風土が医療の質におよぼす影響

【履修上の注意事項】

講義は、提供されたトピックスについての議論を中心に進めるので、問題意識を持って講義に望むこと。また、課された論文についての発表を行わなければ単位は認められないので注意すること。

【評価方法】

論文発表50%、講義中のディスカッション50%の割合で評価する

【テキスト】

講義中に適宜紹介する

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

医療統計学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、実際の事例に即した演習を取り入れながら、看護・福祉分野における統計学の基礎知識と各種手法を習得し、それぞれの専門分野における調査研究や、現場での実務作業を遂行する上で、得られたデータを統計学的手法を用いて分析できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	統計学と確率論
2	記述統計, 各種統計量の定義
3	正規分布, t分布, χ^2 乗分布, F分布
4	標本調査と母集団, 点推定と区間推定
5	検定の考え方, 2種類の過誤, サンプルサイズ
6	2つの平均値の差の検定 (t検定)
7	ノンパラメトリック検定 (順位和検定・符号検定)
8	比率の検定 (対応あり, 対応なし), オッズ比
9	適合度の検定, 独立性の検定
10	残差分析, マクネマー検定
11	分散分析と多重比較
12	相関関係と相関係数, 回帰分析
13	重回帰分析
14	ロジスティック回帰
15	総合演習

【履修上の注意事項】

テキストがないので、講義の内容を事前に予習しておくこと。また、演習問題を中心に復習をし、考え方のプロセスを理解すること。わからないことは質問するなどして、早めに解決しておくこと。

【評価方法】

統計処理の演習のレポートを課し、適切な統計手法が選ばれているか、結果の判断は適切か、結果をわかりやすくまとめて表現できているか、などを実践的に評価する。

【テキスト】

テキストは使わず、適宜プリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に紹介する。

応用倫理学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

人間の健康と不健康、正常と異常、見守りと介入などにおいて、その境界における倫理的判断の感覚の形成をめざします。キーワードとして「作為と不作為」を選択し、この視点から、いかなる時点でどのように「介入」すべきか、それとも「放置」の形態を取り、当事者による「気づき」を待ちつつ「見守る」かーハンセン病当事者の聞き書きを重ねて「質的な研究法」を習得し、倫理に関わる問題発見と解決法のセンスを磨きます。

【授業の展開計画】

本学社会福祉学科主催による「第1回 公開学術シンポジウム 薬害エイズとハンセン病問題がこれからの看護・福祉に問いかけるもの」（2003年12月）に端を発した著作『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（山本務・熱田一信編、本の泉社、2007年）を共通テキストとする。また、現下の日本の諸現実に対して、「作為と不作為」という概念枠によって初めて見えてくる諸出来事を手繰り寄せ持続的にフォローし、その当事者に対する精神的な支援の可能性を追求する。

これとともに、応用倫理学の観点から、ドイツの研究書などを拙訳（未発表）によって原理的に、かつ体系的に追求した成果を摂取する。

聴講者による要約報告を中心としてすすめてゆく予定であるが、聴講者の理解程度に即したものとしたい。また、本学学部社会福祉学科による公開授業「社会福祉特講Ⅰ」で「当事者」（生命と生活の危機と人権侵害の危機に晒され、周章狼狽し、混乱を来した人生から社会的な支援を訴え、社会的な承認闘争に立ち上がった人）による「語り」をよく聴き取る機会を設けているので、この科目の受講が望ましい。

【履修上の注意事項】

物事を原理的に考え抜く意欲性を望む。

【評価方法】

授業中の報告＝50点、レポート＝50点。

【テキスト】

Jonathan Glover, Causing Death and Saving Lives, Penguin Books 1990

山本務・熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（本の泉社、2007年5月）

【参考文献】

演習中、適宜提示。

健康医科学

担当教員 ○掃本 誠治、樋口 マキエ、加藤 浩、未定、永田 俊明、平崎 和雄、
二塚 信、永田 憲行

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 将来「医学」「健康」をキーワードにした有能な高度専門スタッフの育成を目指し、健康科学、医科学、臨床医学全般についての基礎的知識を修得し、健康、医学、そして人間とは何かについて理解できる。
- (2) 健康科学、医科学領域での研究を推進するために必要な科学的裏付けを得るための基礎的研究手法を理解し、大学院生として必要な問題意識を持って情報収集、情報分析、そして新知見を発見できる能力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	ガイダンス、医学概論・生命倫理	(掃本)
2	医科学研究概論①(疫学入門)	(二塚)
3	医科学研究概論②(遺伝薬理学入門)	(掃本)
4	医科学研究概論③(遺伝・環境要因と疾患入門)	(掃本)
5	医科学研究概論④(薬物治療学入門)	(樋口)
6	医科学研究概論⑤(東洋医学入門)	(未定)
7	人間機能・形態学入門①(人体の構造と機能)	(永田憲)
8	人間機能・形態学入門②(心臓の構造と機能)	(掃本)
9	人間こころ心理学概論	(永田俊)
10	人間疾病・治療学概論(免疫学入門)	(掃本)
11	健康科学概論①(人間スポーツ科学)	(平崎)
12	健康科学概論②(筋機能科学—身体不活動の影響)	(加藤)
13	臨床医科学概論①(小児科学、障害者教育)	(永田憲)
14	臨床医科学概論②(内科学)	(掃本)
15	臨床医科学概論③(生活習慣病と疾患)	(掃本)

【履修上の注意事項】

各院生の受講可能な曜日、時刻を調整し、授業日を決める。

【評価方法】

討論(50%)、レポート内容(50%)により総合的に評価する。

【テキスト】

複数の分野にわたる講義なのでテキストは使用しない。必要に応じプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じ、適時紹介する。

精神保健臨床論

担当教員 ○茶屋道 拓哉、野田 隆峰、木村 義則、藤瀬 昇、福田 洋子、和田 冬樹

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成28年度より「心身医学論」から「精神保健臨床論」へ科目名変更。

【授業のねらい】

視座を養うと同時に、メンタルヘルスに関するトピック等から臨床実践例に触れる機会を準備する。本講義を通じ、院生自身の関心のあるメンタルヘルス現象をバイオ・サイコ・ソーシャルを含む多角的視点から捉えられるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神医学総論（野田）
2	統合失調症（野田）
3	老人の精神疾患（野田）
4	摂食障害・神経症・心身症（野田）
5	パーソナリティ障害（野田）
6	身体疾患による精神疾患・リエゾン（野田）
7	小児・思春期の精神疾患（木村）
8	感情障害・自殺関連（藤瀬）
9	アルコール・薬物依存（和田）
10	臨床心理カウンセリング総論（福田）
11	臨床心理カウンセリング症例（福田）
12	現代社会における精神保健の諸問題（茶屋道）
13	心の健康と精神科ソーシャルワーク（茶屋道）
14	いじめ・ひきこもり・不登校へのソーシャルワーク（茶屋道）
15	メンタルヘルス課題におけるチーム医療（茶屋道）

【履修上の注意事項】

院生は主体的に講義に参加し、日常的に問題意識を持ち活発な質疑により学習内容を深めるよう努力すること。特に自身の修士論文テーマと、毎回の講義テーマを関連づけて、問題意識や事前学習を深めて講義に参加するとともに、講義後の振り返りを行うこと。

【評価方法】

授業中のレスポンス（主体的な発言とディスカッションの内容や深まり）30%
レポート70%

【テキスト】

特に使用しない。必要に応じて資料を準備する。

【参考文献】

授業の中で適宜指示をする。

健康支援科学通論

担当教員 ○加藤 浩、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石川 裕子、金子 憲章、川俣 幹雄、徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(1/4)

【授業のねらい】

世界保健機関（WHO）は「健康」について次のように定義している。「Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.」つまり、健康とは「疾病または病弱でないということだけではなく、肉体的、精神的ならびに社会的にも完全に良好な状態」を指す。

【授業の展開計画】

[総論]

1. 加藤 浩：テーマ【健康支援科学の学問的背景】

キーワード：健康，健康支援，ヘルスプロモーション

概要：健康支援科学通論は、「健康寿命」と「ヘルスプロモーション」の概念をベースに「身体のケア」及び「心のケア」，および「身体のキュア」の側面から，対象者の健康支援に関わるための多職種相互理解と連携強化を目指す基盤科目である。健康支援科学専攻設置の趣旨とその社会的意義について概説する。

2. 川俣 幹雄：テーマ【健康支援のための介入法と効果検証】

キーワード：介入法，EBM，メタ・アナリシス

概要：公衆衛生学的な視点から見た健康支援のための代表的な2つの介入法（ポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチ）について学ぶ。さらに介入後の効果検証について，EBMの概念とそれを導き出すための基礎的統計手法（オッズ比，相対リスク比，メタ・アナリシス等）について学ぶ。

[各論]

3. 生野 繁子：テーマ【ケアとジェンダー】

キーワード：ジェンダー，ケア，男女共同参画社会

概要：古来、人々の営みはジェンダーと大きく関わっている。現代社会のジェンダー視点と男女共同参画の現状を概説し、具体的に暮らしの中のあり方とケアに関するジェンダーの影響を考察する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景，学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため，講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜，紹介する。

健康支援科学通論

担当教員 ○加藤 浩、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石川 裕子、金子 憲章、川俣 幹雄、徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(2/4)

【授業のねらい】

つまり、健康とは①身体機能、②精神機能、そして③社会福祉の3つの要素を有機的に連携したものである。そして、本学の医療・福祉の専門職養成大学の特性を加味すれば、健康支援とは医療的アプローチ（医学、理学療法学、鍼灸学、口腔保健学、看護学）と社会科学的アプローチ（社会福祉学、心理学）の両側面を基盤とした複合科学として位置づけることが出来る。

【授業の展開計画】

[各論]

4. 生野 繁子：テーマ【ジェンダー視点からの介護予防と介護者の健康支援】

キーワード：ジェンダー、介護予防、介護者支援

概要：高齢者が地域においてQOLを保ち自分らしく過ごすために、自分自身の介護予防と、要支援要介護者及び家族介護者の健康支援は重要な課題である。要支援要介護の原因疾患の性差、介護する男性の増加に伴う介護者支援の現状と課題を教授し、健康な生活と家族支援についてジェンダー視点から考察する。

5. 福本 久美子：テーマ【働く女性の健康支援】

キーワード：労働の質、ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタル

概要：女性のライフスタイルの特徴から過度なダイエットによる健康リスク、女性特有のガン、更年期障害や閉経後の循環器疾患等、様々な健康課題が存在する。超高齢社会にむけ、女性の労働力は重要な資源である。働く女性が労働の質を高め健康な暮らしを送るためには、個人のライフスタイルの改善のみならず、健康的な社会環境の整備を図ることが重要である。働く女性の健康課題とその支援の実態について、ヘルスプロモーションとソーシャルキャピタルの視点から実践事例と研究成果について教授する。

6. 山本 恵子：テーマ【看護学領域からみた転倒予防と健康支援】

キーワード：転倒予防、高齢者、認知症

概要：高齢者の転倒の9割が生活の場で起きている。高齢者の生活の場は、自宅のみならず施設など多様化し、健康レベルも自立から要介護者、認知症まで様々である。本講義では、多様な背景をもつ高齢者への転倒予防の実際と課題について教授し、認知症を含めた支援について、議論を通して考察する。

7. 加藤 浩：テーマ【理学療法学領域からみた転倒予防と健康支援】

キーワード：転倒予防、生活機能トレーニング

概要：先進国を中心に高齢化社会を迎え、高齢者の転倒は、生活機能の低下に直結し、医療・社会的に極めて重要な問題となっている。転倒の内因性リスク因子としては、バランス障害、筋力低下、視力障害などが挙げられ、これら身体機能レベルに対する理学療法戦略の有効性について最新のエビデンスを提示しながら教授する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景、学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため、講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

健康支援科学通論

担当教員 ○加藤 浩、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石川 裕子、金子 憲章、川俣 幹雄、徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(3/4)

【授業のねらい】

また、近年、本邦で策定された「新健康フロンティア戦略－健康国家への挑戦－」では、具体的アクションプランが提示されており、その中でも「歯や口腔の健康」、「メタボリックシンドローム対策」、「転倒予防」、「介護予防」、「疾病予防」、「女性の健康」、「こころの健康」、「食の選択」、「スポーツ振興」、「子供の健康」などは重要なキーワードとして位置づけられている。

【授業の展開計画】

8. 二宮 省悟：テーマ【高齢者スポーツと健康支援】

キーワード：高齢者スポーツ、トレーニング効果

概要：健康増進の1つとして、スポーツ活動に取り組む高齢者は年々増加し、さらにその活動内容も多様化している。それに伴いスポーツ傷害に対する医療ニーズも高まってきている。傷害予防のために高齢者の身体機能を如何に向上させるかが重要課題である。高齢者の身体トレーナビリティについて生理機能側面から最新のエビデンスを提示しながら教授する。

9. 川俣 幹雄：テーマ【がん予防と健康支援】

キーワード：がん予防、生活習慣

概要：がんは、1981年からの約30年間日本における死亡原因の第1位であり、総死亡の約30%を占めている。がんは難治性の疾患であるが、一部のがんは、予防可能であることが様々な疫学的研究によって示されている。本講義では、①がんのリスクファクター、②日本と欧米におけるがんの疫学的相違、③生活習慣とがんの予防戦略、④1次予防と2次予防などについて教授する。

10. 塚本 紀之：テーマ【鍼灸と免疫～東洋医学からみた感染症予防への健康支援～】

キーワード：未病、免疫、神経、リンパ球、サイトカイン

概要：鍼灸による免疫調節の基礎となる神経系による免疫調節についての最近のトピックスを中心に、東洋医学の古典にみられる免疫の概念なども解説しながら、鍼灸による感染症予防への健康支援について教授する。

11. 内田 匠治：テーマ【鍼灸学（東洋医学）からみた介護予防】

キーワード：経絡、気功、ロコモティブシンドローム

概要：運動器の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態を示す「ロコモティブシンドローム」の対策として推奨される運動と東洋的な身体訓練法（気功・太極拳など）を比較しながら、伝統的な身体技法の介護予防に対する有用性について考察する。さらに東洋的な身体観に基づく経絡や経穴を用いた運動器への介入が介護予防に有用であるということについても実例を示しながら教授する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景、学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため、講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

健康支援科学通論

担当教員 ○加藤 浩、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石川 裕子、金子 憲章、川俣 幹雄、徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(4/4)

【授業のねらい】

そこで当該授業は大きく2段構成とする。まず、第1～2回目はヘルスプロモーションの視点からとらえた健康について講義し、健康支援科学の学問的背景及びその研究対象領域の概説を教授し全体像の把握を図る。次に第3回目以降の講義からは、より専門的視点から健康支援科学についての各論を展開し、医療と福祉の有機的連携の必要性を学ぶ。そして、これら知識を臨床場面で実践応用できるようになる。

【授業の展開計画】

□2. 内田 匠治：テーマ【東洋医学からみた「こころ」の健康支援】

キーワード：心身一如、氣、鍼灸、漢方

概要：東洋医学では身体が切り離せないもの（心身一如）という考え方があり、また精神活動と身体活動の両面にまたがって作用する「氣」という上位概念があり、こころという無形のものに対して、身体を介して治療するという発想がある。それらが、鍼灸・漢方臨床としてどのように実践されているか実例を交えながら東洋的な「こころの健康」観について教授する。

13. 徳永 淳也：テーマ【口腔保健学的接近と健康支援科学の展開】

キーワード：口腔保健学、社会疫学

概要：口腔保健に関する疾患分布、食行動や健康観等の諸相やその口腔保健学的捉え方について、社会で生活する人間という視点から理解することの重要性を先行研究を踏まえて説明し、健康支援科学としての口腔保健学的接近の社会的意義について考察する。

14. 金子 憲章：テーマ【う蝕・歯周病予防の健康支援】

キーワード：う蝕、う蝕、生活習慣病、歯周病原性細菌、炎症性サイトカイン

概要：う蝕を予防する方法を教授し、歯髄、根尖性組織への波及を防止する。また、生活習慣病としての歯周病の定義を理解し、歯周病の原因である歯周病原性細菌の直接的障害作用や歯周組織内で産生された炎症性サイトカインによる肥満・糖尿病、心血管疾患、出産、呼吸器疾患への影響を分子生物学的に教授し、う蝕・歯周病予防による健康支援を考察する。

15. 石川 裕子：テーマ【口腔機能と栄養からみた健康支援】

キーワード：口腔機能、栄養、食生活

概要：口腔には、食べる、話す、表情をつくる、栄養摂取など多くの機能があり、歯や唾液の数や量が変化することで色々な弊害を伴う。口腔の各機能を概説し、歯と栄養摂取、歯数と死亡率などの関係について書かれた論文を紹介したうえで、個人および職種としてできる「口腔機能と栄養からみた健康支援」について考察する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景、学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため、講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

ヘルスプロモーション論

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

健康課題の変化とそれに対応する健康概念およびヘルスプロモーション概念の発展と動向を理解し、実際の活動状況を具体的師利用を基に把握してヘルスプロモーションアプローチの重要性および多様性について理解する。

【授業の展開計画】

健康は、種々の要因によってその保持や増進、阻害などが規定される。近年においては、ライフスタイルの多様化に伴う生活習慣病や高齢化に伴う認知症、高度ストレス社会の結果としての精神障害等が著しく増加している。EBMに基づくヘルスプロモーション研究も非常に進展しており、健康阻害のリスクファクターもかなり明確化されてきており、それらに対応する社会科学的・政策的健康増進対策も進み、包括的な予防や増進の視点からヘルスプロモーションアプローチの重要性が高まっており、具体的な活動も世界各地で展開されてきている。そこで、本講義では、主として以下の内容について教授する。

- ① 健康概念、健康の決定要素およびヘルスプロモーション概念について
- ② 効果的なヘルスプロモーションアプローチの計画、実践、評価、媒体、EBMの視点について
- ③ アラマ・アタ宣言およびオタワ憲章およびそれ以後のヘルスプロモーション国際会議の主要な論点について
- ④ 欧米のヘルスプロモーション施策および健康教育の推移や考え方について
- ⑤ 欧米以外のヘルスプロモーション施策および健康教育の推移や考え方、および欧米との異同について
- ⑥ 精神保健に関わる特異な健康問題へのヘルスプロモーションアプローチについて
- ⑦ ヘルスプロモーションの対象課題ごとの取り組みの状況とその考え方について
- ⑧ 健康都市づくり運動の内容と進展について
- ⑨ わが国における健康日本21やアメリカのHealthy People等の各国の健康増進施策の特徴と課題について

【履修上の注意事項】

講義形式と演習形式のミックスで行う。

【評価方法】

講義中の意見や質問を重視する。また、全員にレポートを課する。講義態度20%、レポート80%とする。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義の中で指示する。

現代社会病理論

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

現代社会は、激しい社会変動の渦中にあり、社会構造の変化により個人や集団、家族などの人間関係に大きな影響を及ぼし、犯罪や非行、自殺、虐待、薬物依存などの種々の社会病理現象を引き起こしている。そこで、これらの発生原因、具体的実相について理論的・実証的に説明し、現代社会病理研究の基礎理論を教授する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	現代社会と社会病理学
2	正常と異常、正常と病理、逸脱行動
3	社会病理研究の歴史
4	社会病理の基礎理論 社会病理の概念
5	社会病理の基礎理論 疎外とアノミー
6	社会病理の基礎理論 社会解体
7	現代の社会病理現象 自殺
8	現代の社会病理現象 家庭内暴力
9	現代の社会病理現象 高齢者虐待
10	現代の社会病理現象 児童虐待
11	現代の社会病理現象 少年非行
12	現代の社会病理現象 犯罪
13	現代の社会病理現象 薬物中毒
14	社会病理問題と社会
15	まとめ

【履修上の注意事項】

社会病理現象の実態については部分的ではあるがマスコミでも取り上げられることが多いので、関連する日々のニュースに対しても関心を持ち、検討する姿勢が望ましい。また、講義には積極的な態度で参加すること。

【評価方法】

評価は、授業中の質疑応答に積極的に参加するかどうか等の講義中の態度20%、およびレポート課題の提出80%とする。

【テキスト】

使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考文献】

別途必要に応じて講義の中で指示する。

ソーシャルネットワーク論

担当教員 未定、後藤 秀昭

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ソーシャルサポートやソーシャルキャピタルの概念を理解し、認知症や孤独な一人暮らし高齢者等、ひきこもりや薬物に関する問題をもつ人々、孤立化している人々を中心に支援の方法を考える。また、社会の進展とともにどのような問題が発現し、社会的支援や各種プログラムがどのように関与しているかをともに考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	都市化とコミュニティの変容	佐藤
2	都市化と社会病理現象	佐藤
3	ソーシャルサポートとは ①	佐藤
4	ソーシャルサポートとは ②	佐藤
5	ソーシャルキャピタルとは ①	佐藤
6	ソーシャルキャピタルとは ②	佐藤
7	ひきこもりの支援とは 家族支援・本人支援	佐藤
8	ひきこもりの支援とは 支援システムの整備	佐藤
9	一人暮らし高齢者・認知症高齢者等への支援 ①	後藤
10	一人暮らし高齢者・認知症高齢者等への支援 ②	後藤
11	一人暮らし高齢者・認知症高齢者等への支援 ③	後藤
12	一人暮らし高齢者・認知症高齢者等への支援 ④	後藤
13	一人暮らし高齢者・認知症高齢者等への支援 ⑤	後藤
14	薬物依存・乱用をしている人々への支援 ①	後藤
15	薬物依存・乱用をしている人々への支援 ②	後藤

【履修上の注意事項】

佐藤担当分については通常の時間割枠の中で実施するが、後藤担当分については夏季休暇中に集中講義として行うので注意されたい。

【評価方法】

授業への積極的参加と、レポートを重視し、積極的態20%、レポート80%とする。

【テキスト】

使用しない。適宜資料を紹介・配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

家族精神保健論

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

“家族”を主題にした予防・臨床領域について講義を展開するとともに、各セッションで院生とともに家族援助上の実践や理論から生まれた概念等についてディスカッションすることにより更なる研究的な関心の涵養に資すること

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	家族システム理論
2	家族理解の鍵概念
3	家族ライフサイクル
4	結婚（夫婦）による家族形成
5	子育て期の家族
6	若者世代とその家族
7	高齢期の家族
8	家族への臨床的アプローチ
9	夫婦関係の危機と援助
10	子育てをめぐる問題と援助
11	家族ストレスと援助
12	家族のコミュニケーション
13	家族と女性
14	家族と男性
15	家族発達と援助

【履修上の注意事項】

配布資料に基づき講義後院生とのディスカッションを行う。また関連雑誌論文のレビューを提出させ抄読していくので、事前事後の準備や復習を必要とする。

【評価方法】

学期中に提出された雑誌レビューおよび提出されたレポート：50%
学期末に提出された最終レポート：50% 総合；100点採点

【テキスト】

配布資料 学術雑誌 など各セッション毎に指定していく

【参考文献】

セッションごとに随時紹介していく

教育精神保健論

担当教員 山本 孝司

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

今日の子どもに関する問題（適応障害や学業不振、神経症、不登校やいじめ、暴力など）および子どもを取り巻く問題（貧困、教育格差など）について学び、教育に内在する予防的機能と治癒的機能、学校教育と関わる子どもの精神保健課題への対応や支援のあり方について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育精神保健学の対象と方法－学校教育に関わる「臨床的な知」として
2	学校教育の始まりにおける問題－幼年期(1) 幼児期の教育
3	学校教育の始まりにおける問題－幼年期(2) 家庭の教育
4	学校教育の始まりにおける問題－幼年期(3) 小1プロブレムと中1ギャップ
5	学校教育の終わりに関わる問題－思春期(1) 中途退学、不登校の背景
6	学校教育の終わりに関わる問題－思春期(2) 多様な性のあり方について
7	ヴィクトール・フランクルの方法(1) ログセラピー
8	ヴィクトール・フランクルの方法(2) 実存分析
9	社会と教育－アメリカ進歩主義教育に焦点を当てて(1) エマソン
10	社会と教育－アメリカ進歩主義教育に焦点を当てて(2) デューイ
11	教育実践の理論(1)－シュタイナー
12	教育実践の理論(2)－モンテッソーリ
13	教育実践の理論(3)－フレネ
14	教育実践の理論(4)－ニール
15	まとめ

【履修上の注意事項】

授業に際しては事前に資料を読み、事後には復習をすること。

【評価方法】

授業における研究発表・報告（30%）、及び、小レポート（30%）、総合レポート（40%）をあわせて総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に指示する

【参考文献】

適宜紹介する

高齢者精神保健論

担当教員 後藤 秀昭

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 高齢期における心理社会的諸現象を理解し、メンタルヘルスを阻害する要因を考究できる。
2. 高齢期の精神保健問題の予防、家庭や地域におけるメンタルヘルス支援の理論と具体的方法を理解できる。
3. 高齢期の精神障害の中で、認知症やうつ病を中心に高齢者のメンタルケアや支援、家族や地域支援について理解できる。

【授業の展開計画】

高齢期は心身機能の低下、退職による社会的地位や収入の減少、配偶者や親しい友人などとの離・死別等、複合喪失のステージにある。これら高齢者のライフイベントやステージに応じた精神保健問題の予防、家庭や地域における精神的健康づくりについて教授する。

さらに高齢期精神障害の中で「認知症」や「うつ病」を中心に、高齢者のメンタルヘルスやメンタルケアはもとより、介護家族への支援、地域ケアや地域保健計画、予防や健康の保持・増進などの社会的支援方法についても教授する。

1. 高齢期（概ね65歳以上）における心理社会的環境の変化がもたらす精神保健の課題
2. 高齢期精神保健対策の現状と課題
3. 高齢期のメンタルヘルス支援の理論と具体的方法
4. 高齢期の認知症の理解
5. 高齢期の認知症のメンタルケア（家族、地域支援を含む）
6. 高齢期のうつ病の理解
7. 高齢期のうつ病へのメンタルケア（家族、地域支援を含む）

※本講義は、各テーマについての講義と、テーマに関連した論文（教員が指定する）を院生がまとめて発表して集団討議する授業とを交互に行う。教員からの一方的な講義ではなく、教員と院生の双方向の授業を展開する。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

課題レポート（50%）、講義内容に関するディスカッションへの寄与（30%）、教員の質問に対する応答（20%）

【テキスト】

必要な資料は、適宜配布する。

【参考文献】

特になし

精神保健介護論

担当教員 吉岡 久美

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

人間は、病いや障がい、老いととも成長する。そのライフステージでは何かしらの援助がおこなわれており、そのケアがなければ生活はなりたないといっても過言ではない。中でも、精神の障がいや認知症などの状態では、そのケアを行う際に当事者の語り・ことばが重要な意味を持つ。当事者の生活の質を高め、ケアにおいて尊厳をいかに実現するか、議論しながら考える。

【授業の展開計画】

家族・地域社会・環境などに焦点をあて、研究者としての問題意識をもち、自己を見つめながら、ケアが必要な状態に置かれた時の精神的過程をともに考えていく。

週	授 業 の 内 容
1	「介護」のとらえ方とケアの概念
2	ケアの倫理を考える
3	人を援助するという事について探求する
4	発達段階におけるケアの必要性を探る
5	「生きる」こととは何か、その課題とケアの関連を探る
6	「ケアを受ける人」の現状と課題の探究
7	「ケアをする人」の現状と課題の探究
8	「ケアの場」と人の関係における現状と課題
9	生活へのケアの実際とストレスに関する研究の探究
10	生活者への支援であるケアの実際課題の検討
11	ケアの実際における依存の存在を探る
12	価値観の違いとストレスへの対処
13	ケアの実践者が抱える課題を明確にする
14	老いるということ、生きる権利、死ぬ権利と、尊厳の間に起こる葛藤
15	これからのケアへの探究

【履修上の注意事項】

問題意識を持ち、議論に積極的に発言すること

【評価方法】

課題レポート及び発表 40%
 討議の積極性 40%
 最終レポート 20%

【テキスト】

川本隆史：ケアの社会倫理学 医療・看護・介護・教育をつなぐ。有斐閣
 ファビエンヌ・ブルジュール：ケアの倫理—ネオリベラリズムへの反論。白水社。2014

【参考文献】

広井良典：ケア学 越境するケアへ。医学書院。2005、やまだようこ編：人生を物語る。ミネルヴァ書房。2007
 エヴァ・フェダー・キティ：ケアの倫理からはじめる正義論 支えあう平等。白澤社。2011

精神保健管理論

担当教員 豊田 保

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

人間の生涯発達過程の視点から精神障害者の発達について理解できる。
精神障害者の発達と福祉を保障するためのエコロジカルな環境づくりを理解できる。
精神障害者の発達と福祉のための環境管理マネジメントを理解できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健管理の歴史的発展の動向 (1) 戦後から高度成長期へ
2	精神保健管理の歴史的発展の動向 (2) 高度成長期から低成長期へ
3	精神保健管理の歴史的発展の動向 (3) 今日の動向
4	精神保健管理とエコロジカルの視点 (1) インフォーマルな視点
5	精神保健管理とエコロジカルな視点 (2) フォーマルな視点
6	精神保健管理とエコロジカルな視点 (3) ソーシャルサポート・ネットワークの視点
7	ライフステージと精神保健管理 (1) 幼児期
8	ライフステージと精神保健管理 (2) 児童期
9	ライフステージと精神保健管理 (3) 思春期
10	ライフステージと精神保健管理 (4) 青年期
11	ライフステージと精神保健管理 (5) 壮年期
12	ライフステージと精神保健管理 (6) 高齢期
13	生活の場と精神保健管理 (1) 家族と地域社会
14	教育の場と精神保健管理 (2) 学校教育と社会教育
15	労働の場と精神保健管理 (3) 福祉的就労と一般就労

【履修上の注意事項】

講義科目であるが、院生の問題意識に基づく主体的な発言や発表を歓迎する。
院生相互の研究交流を歓迎する。

【評価方法】

- 1) ゼミにおける発言や発表の内容を評価する=50%。
- 2) 期末レポートにより評価する=50%。

【テキスト】

講義の進捗状況に応じて教示する。

【参考文献】

講義の進捗状況に応じて教示する。

精神保健アセスメント論

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

精神保健におけるアセスメントはクライアントの可能性を探るために行われるものである。能動的機能と受動的機能の相補性を理解し、非構造化面接から質問紙法にいたる臨床心理アセスメント技法の修得とスーパーバイズを通じたカウンセリング技法の修得を行う。

【授業の展開計画】

1. パーソナリティ領域：「 行動 」に関するアセスメント
2. パーソナリティ領域：「 認知 」に関するアセスメント
3. パーソナリティ領域：「 発達・知能 」に関するアセスメント
4. パーソナリティ領域：「 性格 」に関するアセスメント
5. パーソナリティ領域：「 人格障害 」に関するアセスメント
6. パーソナリティ領域：「 精神障害 」に関するアセスメント
7. 非構造化面接法
8. 半構造化面接法
9. 構造化面接法Ⅰ
10. 構造化面接法Ⅱ
11. 構造化面接法Ⅲ
12. 質問紙法Ⅰ
13. 質問紙法Ⅱ
14. カウンセリング技法Ⅰ
15. カウンセリング技法Ⅱ

【履修上の注意事項】

事前にアセスメントツールに関する知識を学習しておくこと。さらに授業後実践に活かせるようアセスメント方法について復習すること。

【評価方法】

レポート60%及び報告40%により総合評価

【テキスト】

使用せず。

【参考文献】

質問紙法等の検査実施に伴うマニュアル等は随時資料として配布する。

精神保健看護論

担当教員 吉岡 久美

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項 平成28年度は第2学期に開講する

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

日本では少子高齢社会となり、特に高齢者の単身世帯や高齢者世帯が増加している。また、経済格差や労働と収入の不均衡も発生している。その中で家族に身体・精神状態の変化が発生すると、これまでの生活は大きく変化する。罹患したり障がいがかかえたりする本人もその家族も、心身のバランスをとることが容易ではなく、不健康状態となりかねない。そこで、看護の視点を基盤として、ターミナル期を迎える患者のみならず、慢性的疾患、精神疾患を持つ患者とその家族の精神保健の課題について、対応や支援の在り方を探究する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	日本における高齢社会、核家族化の現状と課題の探究
2	日本における 家族関係の変化の現状と課題の探究
3	死因で最も多い、がんの罹患状況と生活課題の探究
4	がん患者とその家族の生活課題への対応の検討
5	慢性疾患を持つ患者の生活と家族の課題の探究
6	終末期患者と家族の生活の変化と課題の探究
7	精神疾患患者と家族の課題の探究
8	がん患者と家族への支援に関する文献検討
9	慢性疾患患者と家族への支援に関する文献検討
10	終末期をむかえる患者と家族の支援に関する文献検討
11	精神疾患の患者と家族の支援に関する文献検討
12	不健康状態にある人への支援と倫理
13	不健康状態にある人に支援する人々のストレスの探究
14	不健康な状態への対応の検討
15	発達段階から見た不健康な状態への精神保健看護の課題の探究

【履修上の注意事項】

単元について事前にリサーチし、まとめておくこと。講義終了後は振り返りを行い、課題に取り組むこと。

【評価方法】

討議の積極性：40% 課題の提出：40% 最終課題レポート：20%

【テキスト】

講義に必要な資料、文献は適宜紹介する。

【参考文献】

障害児発達援助論

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

知的障害、注意欠陥多動性（ADHD）、自閉症、コミュニケーション障害などの、発達障害への理解を深めると共に、発達障害児への援助について教授する。特に、幼稚園、小・中学校など特別支援教育の現場での課題や実際の事例を取り上げながら、障害のある個人を対象とした援助から、家庭や学校・地域を含む包括的な援助、社会的参加の援助、生涯にわたる援助などについて教授する。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション；
授業計画の説明・障害児との経験や障害児に対する考え方について
2. 発達障害児への援助 ―現状と課題―
3. 障害児の発達援助の基礎となる理論と課題
4. 援助にあたっての医学的問題
5. 障害児の社会的関係形成困難へのアプローチ
6. 機能的コミュニケーション訓練の臨床的意義及び訓練の概要
7. コミュニケーションの発達援助
8. 相互行動論からの援助アプローチ
9. 「注意」と「動き」に対する援助アプローチ
10. 教育的対応としての援助
11. インクルーシブ・エデュケーション (inclusive education)
12. 地域における早期療育システムについて
13. 家族支援の動向と実践
14. 親指導と親子関係の改善
15. 地域参加の促進と社会参加スキル形成

【履修上の注意事項】

特に、なし。

【評価方法】

発表や発言、資料準備などを総合的に評価する。

【テキスト】

プリント資料を配布する。

【参考文献】

障害幼児の発達援助；松坂清俊；コレール社

行動障害援助論

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、自閉性障害、注意欠陥多動障害（ADHD）などをもつ発達障害児の行動障害の成因、行動の特徴、対応の仕方などについて学びを深める。さらに、問題行動の治療のために応用行動分析の導入と活用など、最新の研究成果を取り入れながら、教育や福祉の実践現場において発達障害児の行動障害への具体的な援助方法について教授する。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション；
授業計画の説明・行動障害児(者)の援助に関する経験や考え方について
2. 生活障害としての発達障害とその行動問題について
3. 応用行動分析（ABA；Applied Behavior Analysis）について
4. 応用行動分析（ABA）の特徴
5. 応用行動分析と行動修正
6. 問題行動の選択と観察及び記録
7. 行動記録及び測定の方法
8. 問題行動の評価（Behavior Assessment）；機能行動評価と機能行動分析
9. 行動障害の種類とその障害の特性
10. 行動障害を示す子どもの理解と対応
11. 問題行動の治療の例（1）
12. 問題行動の治療の例（2）
13. 問題行動の治療の例（3）
14. 行動障害を示している子どもとその家族への支援
15. 診断・医療情報をもつ意味と価値—学校現場の視点から—

【履修上の注意事項】

発達障害児の問題行動について調べる

【評価方法】

発表・学習準備などを総合的に評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

行動障害の理解と援助；長畑正道・小林重雄・野口幸弘・園山繁樹 編集，コレール社

家族発達援助論

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

人間にとって福祉追求の第一次集団である家族が時には反社会的環境になる。児童虐待、DV等の事例がこのことを物語っている。つまり、家族システムが個々の文化の中で描くライフサイクルを軸に、そのシステム上の問題、また院生個々の研究テーマを基礎に家族の発達課題認識とその遂行上の援助について関連文献の輪読や事例分析を通して院生の報告によって探索し、理解を深める。

【授業の展開計画】

I 理論編

1. 発達精神病理学について
2. 精神病理の発達におけるダイナミックな過程
3. 発達における“道すじ”－発達の多元論
4. レジリエンスとリスク

II 研究編

5. 親子サブシステムと発達
6. 夫婦のサブシステムと発達

III 臨床応用編

7. 問題の診断・分類・概念化
8. 予防と治療

以上、パートをわけ、家族発達に関する援助のあり方について展開する。

【履修上の注意事項】

院生による担当制でレジュメを作成していただき、演習形式で展開していく。

【評価方法】

レポート60%及び報告40%により総合評価

【テキスト】

未定、決定次第購入。

【参考文献】

各サブ・テーマの文献、資料を使用する。また、各院生の研究テーマに沿って、随時参考書等を指定していく。

生活環境支援論

担当教員 西島 衛治

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

これまでの環境整備としての障害者のバリアフリーは、車いす使用者など身体障害者が中心になっていた。しかし、脳機能障害などの精神活動面でのバリアフリーは、これまで一般化されていない。そこで、院生が、身体障害者のバリアフリーとの違いを明示しながら、精神障害者のほか認知症高齢者、発達障害者(児)が地域で社会生活が継続できるための生活、また、環境支援の方針を地域福祉学的アプローチが理解できることに基づいて教授する。

【授業の展開計画】

精神障害者の統合失調症などに見られる幻聴や幻視などの不安要因が見られるが、どのように住環境を整備すると安定的住生活が可能かを追求する。

認知症高齢者のうちアルツハイマー病は、脳血管障害より認知障害が顕著に進行するが、認知障害に対応した構造化を用いた住環境整備の方針を教授する。

また、発達障害には、自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害などがあり、何れも認知の障害が見られる事がある。対応として構造化の手法によりグループホームを含めた住環境を理解しやすくし、安定した生活ができる情報についても教授する。

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分) 【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図や表に整理する。(120分) 【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

講義中の質疑応答(30%)

レポート内容(50%)

成果物の提出状況(20%)

【テキスト】

スティーブン・ジュアッド他「痴呆を癒す建築」鹿島出版会

【参考文献】

西島 衛治著：図解自閉症児の教室の構造化 - 特別支援教育のための教室づくりと実践例一、小林出版、2005年11月

精神保健住環境論

担当教員 西島 衛治

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

院生が、精神障害者のほか認知症高齢者、発達障害者(児)が地域で社会生活が継続できるためのグループホームを含めた住環境整備の方針をノーマライゼーションの理念に基づき、環境心理学的アプローチの視点が確立できることを重視して講義する。

【授業の展開計画】

精神障害者の統合失調症などに見られる幻聴や幻視などの不安要因が見られるが、どのように住環境を整備すると安定的住生活が可能かを追求する。
認知症高齢者のうちアルツハイマー病は、脳血管障害より認知障害が顕著に進行するが、認知障害に対応した構造化を用いた住環境整備の方針を教授する。
また、発達障害には、自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害などがあり、何れも認知の障害が見られる事がある。対応として構造化の手法によりグループホームを含めた住環境を理解しやすくし、安定した生活ができる情報についても教授する。

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分) 【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図や表に整理する。(120分) 【その他のアドバイス】講義の中でノートを作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

講義の講義中の質疑応答(30%)
レポート内容(50%)
成果物の提出状況(20%)

【テキスト】

西島衛治：社会福祉と環境「社会福祉の発見」新社会福祉講座、福永善秀編、あいり出版、2009年2月

【参考文献】

西島衛治ほか共著：社会福祉学 - 人間福祉とその関連領域、学文社、2007年4月

応用健康教育論

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成28年度以前入学者適用科目。平成29年度は閉講。

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- ①健康教育や健康観の歴史とその変遷について理解する。
- ②健康教育の計画と評価について理解する。
- ③各分野・主な課題別の健康教育の実践を理解する。
- ④健康教育とその研究方法について理解する。
- ⑤健康教育のあるべき姿を描くことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	健康教育とは
2	健康教育の歴史とその社会的背景
3	WHO（世界保健機構）の健康戦略と健康教育
4	健康教育における社会的アプローチ
5	ヘルスリテラシーと健康教育
6	ライフスキルと健康教育
7	健康教育の計画と評価1
8	健康教育の計画と評価2
9	学校における健康教育の現状と課題
10	地域保健と健康教育の現状と課題
11	事業場における健康教育の現状と課題
12	課題別健康教育（ライフスタイルと健康教育）
13	課題別健康教育（健康教育と病態、予防、治療）
14	健康教育における研究方法
15	健康教育のあるべき姿と健康教育実践家の育成

【履修上の注意事項】

授業前後に、健康教育に関する事前学習及び復習を行い、各自の実践に生かすことができるよう努めること。

【評価方法】

レポート80点、予習・復習による自主的学修態度20点

【テキスト】

健康教育（ヘルスプロモーションの展開）、保健同人社、日本健康教育学会編

【参考文献】

適時、提供。

精神保健ソーシャルワーク論

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代社会における精神保健上の諸課題について、我が国の精神保健福祉施策における歴史的・文化的・社会的背景を踏まえたうえで、「ソーシャルな視点」から再接近する。ソーシャルワーカーという精神保健福祉領域において特徴的立場に立つ専門職の固有性とその限界について、多職種チーム医療、あるいは超職種チーム、倫理的ディレンマの観点から俯瞰し、主体的に考えることが出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神障害者の置かれてきた立場性①（偏見・差別）
2	精神障害者の置かれてきた立場性②社会防衛・逸脱・社会的排除
3	精神医療保健福祉と権力（援助関係性・自己決定論も含めて）
4	精神保健福祉施策の変遷①（史的展開）
5	精神保健福祉施策の変遷②（精神科病院をめぐる事件と権利）
6	近年の精神保健福祉施策の現状と課題①（退院促進・地域移行）
7	近年の精神保健福祉施策の現状と課題②（地域定着・アウトリーチ）
8	精神保健領域における臨床実践の諸課題①ソーシャルワーカーの固有性と限界
9	精神保健領域における臨床実践の諸課題②他職種チーム医療と超職種チーム
10	精神保健領域における臨床実践の諸課題③専門職の倫理とディレンマ
11	精神保健領域における臨床実践の諸課題④理論と実践の往復（ITP Loop）
12	精神保健医療福祉を総合的・包括的に推進するための理論的背景と実践（討議）
13	精神保健医療福祉を総合的・包括的に推進するための理論的背景と実践（討議）
14	精神保健医療福祉を総合的・包括的に推進するための理論的背景と実践（討議）
15	本講義のまとめとふりかえり

【履修上の注意事項】

テーマやTopicsに即して院生と教員のディスカッションを中心に行うので、自身の修士論文テーマと関連付けて、問題意識を持って臨むこと。
また、講義後は振り返りを行うこと。

【評価方法】

レポート50%、講義時のディスカッション50%

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じてTopicsや資料を配布する。

【参考文献】

フレデリック・G・リーマー著、秋山智久監訳『ソーシャルワークの価値と倫理』2001年、中央法規。
マイケル・オリバーほか著、野中猛監訳『障害学にもとづくソーシャルワーク（第3版）』2010年、金剛出版。

発達障害臨床論

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

特別支援教育が始まり、発達障害を持つ子どもへの対応が求められる中、適切な支援が困難な状況にある。これらを支援する上で必要な生物学的なレベルからの認知特性、行動特性を理解する。これを基盤として問題行動を含めた日常生活の困難さを理解した上で必要な支援の考え方と組み立て方を修得する。また子どもへの支援だけでなく、家族支援や地域社会との連携を含めた生涯発達支援の在り方を考える。

【授業の展開計画】

1. 生涯発達支援の視点からの理解と支援の重要性
2. 発達の種類と発達の障害
3. 発達と発達障害の育ちおよび環境の問題
4. 自閉症スペクトラム障害への理解 ①社会性の諸問題
5. 自閉症スペクトラム障害への理解 ②コミュニケーションの諸問題
6. 自閉症スペクトラム障害への理解 ③固執性とこだわりの諸問題
7. 自閉症スペクトラム障害への理解 ④想像力と心の理論の諸問題
8. 自閉症スペクトラム障害への理解 ⑤感覚と感情の諸問題
9. 学習障害への理解
10. 注意欠陥多動性障害への理解
11. 発達障害と虐待の関連についての理解
12. 特別支援教育と発達障害
13. ペアレント・トレーニングへの理解と方法
14. 青年期・成人期の発達障害への理解と支援の考え方
15. 各種専門機関との連携と専門性の諸問題

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

受講態度70%、レポート30%

【テキスト】

「発達障害の子どもたち」「発達障害のいま」いずれも杉山登志郎、講談社現代新書

【参考文献】

適宜紹介する

計量解析研究論

担当教員 山住 賢司

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人文・社会科学を始め医療・福祉・保健領域といった様々な分野においても多変量データを用いた研究は当然のものとなってきている。複数個の変数によって特徴づけられた多変量データの解析法はその分析目的に応じて様々な手法が開発されているが、本講義では代表的なものを取り上げ、各手法の原理の理解と分析結果の解釈に繋がる応用的知識の習得を目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	多変量データ分析の基本的な考え方
2	クラスター分析
3	主成分分析
4	重回帰分析
5	重回帰分析における偏回帰係数の解釈法
6	パス解析の基本
7	モデル間比較の考え方
8	確認的因子分析
9	モデルの識別性と不適解の問題
10	構造方程式モデリング
11	探索的因子分析
12	因子数の選定と因子軸の回転
13	数量化分析
14	多次元尺度法
15	判別分析

【履修上の注意事項】

大学学部レベルでの統計学関連科目の知識を前提とする。
各回の内容について事前にテキストの該当部分を確認しておくこと。
また講義終了後に、各回の配布資料の内容をテキストで確認し理解を深めることを求める。

【評価方法】

期末レポート（80％）発表・講義への参加姿勢（20％）で評価する。

【テキスト】

「多変量データ解析法 心理・教育・社会系のための入門」 足立浩平（著） ナカニシヤ出版 2006

【参考文献】

「原因をさぐる統計学」 豊田秀樹・前田忠彦・柳井晴夫（著） 講談社 1992
「多変量データ解析法 一理論と応用一」 柳井晴夫（著） 朝倉書店 1994

発達精神保健学特論

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 必修：発達精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

最近、保育や教育、心理相談の場面で軽度発達障害の子どもたちの相談が増えてきている。本講義では、発達障害、不登校、いじめ、虐待など子どもを取り巻く問題について発達段階、発達課題、発達評価など発達臨床の視点から子どもの理解と対応を目指す。特に、応用行動分析学の考え方の導入と活用など理論的・実践的な技術を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	授業計画の確認（導入）	16	心理・発達検査の活用（1）
2	子どもの発達の特徴（乳幼児期・幼児前期）	17	心理・発達検査の活用（2）
3	子どもの発達の特徴（幼児後期・児童期）	18	行動障害の定義と視点
4	子どもの発達の特徴（大人への入り口）	19	発達障害と行動障害
5	子どもの発達の特徴（模索する青年）	20	行動障害とその障害特性
6	子どもの発達の特徴（大人になれない若者）	21	発達障害の援助の方法
7	発達障害概念の歴史と展望	22	心の問題と対応（不登校・ひきこもり）
8	発達障害に含まれる障害	23	子どもの心の問題と対応（虐待・場面緘黙）
9	発達の臨床と教育相談	24	TEACCHの考え方と援助アプローチ
10	教育相談に生かす発達の理論	25	行動的立場の考え方と援助アプローチ
11	愛着理論	26	行動障害に焦点化した療育の在り方
12	心の理論	27	個別指導プログラムの作成と展開（1）
13	ニーズの理解と子どもの行動評価	28	個別指導プログラムの作成と展開（2）
14	子どもの行動を理解する方法	29	家族や関係者との連携
15	親の心を理解する方法	30	「障害のある子」から「ニーズのある子」へ

【履修上の注意事項】

受講生の発表やレポートを基に進めていく。

【評価方法】

発表・発言状況50%、レジュメやレポート50%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

毎回、事前に資料を配布する。

【参考文献】

適時紹介する。

発達精神保健学特論

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 必修：発達精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

社会・組織を構成する集団としての人間の心の健康や文化も視野に入れたメンタルヘルスを包括的に把握することを目標とします。

【授業の展開計画】

メンタルヘルスについて、臨床心理学、社会心理学、医学、社会学等の学際的なアプローチを総合するかたちでメンタルヘルスの全体像を把握しようと試みる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	メンタルヘルス（心の健康）について	16	不安（パニック障がいなど）
2	臨床心理学的アプローチ	17	ストレス関連障がい
3	親と子の応答関係から	18	抑うつ
4	家族ライフサイクルにおけるメンタルヘルス	19	メンタルヘルスの歴史と概念
5	学校とメンタルヘルス	20	精神的健康なパーソナリティ
6	高齢者とメンタルヘルス	21	適応のメカニズム
7	社会心理学的アプローチ	22	乳幼児期の発達とメンタルヘルス
8	メンタルヘルスと自尊心	23	児童・思春期の発達とメンタルヘルス
9	社会的賢さとメンタルヘルス	24	青年期の発達とメンタルヘルス
10	仕事ストレス	25	中年期の発達とメンタルヘルス
11	幸福感と文化	26	高齢期の発達とメンタルヘルス
12	日本社会とメンタルヘルス	27	精神分析の視点から見た性とこころ
13	こころの病気とメンタルヘルス	28	性の逸脱について
14	軽度発達障害	29	家族のメンタルヘルス
15	パーソナリティ・ディスオーダー	30	メンタルヘルスに対する学際的アプローチ

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

授業の進捗に応じた事前準備に関する評価

単元によるレジュメ作成 50%

プレゼン内容 50%

以上を総合的に評価する。

【テキスト】

未使用。

【参考文献】

適宜、単元内容により、事前に紹介していく。

発達精神保健学特論

担当教員 山住 賢司

配当年次 1年

単位区分 必修：発達精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

感覚・知覚は、人間が自身の内外の環境情報を取り入れるという役割を担っており、心の窓口ともいえる。従って自己・他者を含めた心の関わる領域における様々な問題を理解するための基盤として、感覚・知覚の果たす役割は少なくない。本講義は、この感覚・知覚について現代心理学成立前後の流れを踏まえた上で特徴的な知覚理論を取り上げ、その理解・把握を目的とする。心理学のみならず、近年の認知哲学や現象学的なアプローチをも俯瞰しながら「感覚・知覚とは何か」という命題を探究していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	感覚・知覚とは何か	16	I. Rockの間接知覚論
2	近世感覚・知覚論：J. P. MullerとJ. Locke	17	知覚に関する問題解決的アプローチ
3	近世感覚・知覚論：H. von Helmholtz	18	A. Noeのエナクティヴ・アプローチ
4	近世感覚・知覚論：ゲシュタルト心理学	19	知覚の現象学
5	J. J. Gibsonの生態学的アプローチ	20	感覚－運動的知識に依存した知覚経験
6	配置の不変性と変化	21	色知覚における現象的客観主義
7	面とその生態学的法則	22	知覚の因果説
8	生活体にとって意味のある環境	23	知覚経験における思考
9	刺激作用と刺激情報との関係	24	知覚経験と脳
10	包囲光配列	25	認知科学と現象学的アプローチ
11	自己知覚に関する光学的情報	26	盲視から考える意識と自己意識
12	アフォーダンスの理論	27	知覚的全体論
13	D. Marrの計算理論	28	身体化された心
14	視知覚系の課題～2次元から3次元の再構成	29	行為者性の感覚
15	プライマル・スケッチと2.5Dスケッチ	30	他者知覚と心の理論

【履修上の注意事項】

各回で取り上げる理論について事前に関連する文献を読んでおくことを推奨する。また各回の内容については終了後必ず確認を行うこと。

【評価方法】

レジュメ・口頭発表の内容（50%）とレポート（50%）により評価する。

【テキスト】

「知覚のなかの行為」 Alva Noe（著） 門脇俊介・石原孝二（監訳） 春秋社 2010
また随時資料を配布する。

【参考文献】

「現象学的な心」 Shaun Gallagher & Dan Zahavi（著） 石原孝二他（訳） 勁草書房 2011
「生態学的視覚論」 James J. Gibson（著） 古崎敬他（訳） サイエンス社 1985

発達精神保健学演習

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年～2年

開講時期 第2学期～第1学期

単位区分 必修：発達精神保健学分野

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

発達精神保健学に関連する学術書や研究論文を批判的に読む力と科学的な証拠を評価するための知識を身に付ける。また、自分の研究テーマに沿って関連する文献や資料に基づき発表し、研究テーマを具体化する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	演習計画の確認（導入）	16	先行研究からの知見
2	文献検索とその内容的吟味の意義	17	問題意識から研究テーマへ
3	文献検索方法の実際	18	研究テーマの具体化
4	研究論文の批判的吟味	19	研究デザインの検討
5	発達心理学研究の動向と最新文献1	20	応用行動分析学研究の動向
6	発達心理学研究の動向と最新文献2	21	認知行動療法論の吟味
7	発達心理学研究の論文の分析1	22	研究デザインの再検討
8	発達心理学研究の論文の分析2	23	応用行動分析学研究の論文の分析1
9	発達心理学研究の論文の分析3	24	応用行動分析学研究の論文の分析2
10	先行研究からの知見	25	応用行動分析学研究の論文の分析3
11	発達障害学研究の動向と最新文献1	26	応用行動分析学研究の論文の分析4
12	発達障害学研究の動向と最新文献2	27	先行研究からの知見
13	発達障害学研究の論文の分析1	28	発達障害児の支援・指導の論文の分析1
14	発達障害学研究の論文の分析2	29	発達障害児の支援・指導の論文の分析2
15	発達障害学研究の論文の分析3	30	発達障害児の支援・指導の論文の分析3

【履修上の注意事項】

受講生の発表やレポートを基に進めていく。

【評価方法】

発言状況50%、レジュメやレポート50%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適時、紹介する。

発達精神保健学演習

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年～2年

単位区分 必修：発達精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

主に研究論文作成に必要な量的・質的研究の方法論について理解すること。
人間科学研究法全般についての知見や理論の修得を目指す。
また、院生の研究テーマに沿って関連する文献や資料に基づきレジюмеを作成しディスカッションしていく。

【授業の展開計画】

人間科学研究法全般について、理論から方法までの把握を目標とする。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	問題意識から研究課題へ	16	調査面接技法について
2	理論と仮説の役割について	17	面接結果のまとめ方について
3	先行研究レビューの方法について	18	参与観察について
4	データ収集の基本方針について	19	インタビューによるフィールド研究
5	サンプリングについて	20	質問紙作成について
6	研究のタイプについて	21	サンプル抽出について
7	研究計画書作成について	22	統計分析について
8	倫理綱領に基づく研究倫理について	23	SPSSを用いた統計手法
9	文献検索方法について	24	論文の体裁・作成について
10	インターネット活用による文献検索	25	論文の書き方 構成とルール
11	新聞・雑誌等ペーパーからの検索	26	院生の関心領域によるレビュー
12	メッセージ分析：内容分析	27	関心領域の先行研究レビュー
13	メッセージ分析：談話分析	28	キーワードに基づく先行研究レビュー
14	観察実践法について	29	修士論文テーマの焦点化
15	エスノグラフィーについて	30	修士論文テーマの決定・ディスカッション

【履修上の注意事項】

授業展開に基づき、事前の準備を怠らないこと。

【評価方法】

レジюме及びプレゼンの内容60%
最終的な口述試験40% 総合評価を行う。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

授業内容により適宜紹介、使用していく。

発達精神保健学演習

担当教員 山住 賢司

配当年次 1年～2年

単位区分 必修：発達精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

研究論文を作成する過程においては論文を批判的に読む力、すなわちクリティカルシンキング能力は不可欠なものである。科学的な証拠を評価するための知識を身に付けることは、自身の研究が不適切な研究デザインに陥ってしまうことを回避することにも繋がる。そこで研究デザインの原理と論文クリティークのための方法について解説を行い、実際に論文クリティークを多数行うことでそれらの知識の定着を目指す。さらに自身の研究テーマに沿った文献レビューを行うことでクリティカルシンキング能力の醸造を図る。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究論文とは何か	16	論文批判：ストレス・マネジメント
2	研究論文のクリティーク	17	論文批判：選択コンサルテーションの効果
3	研究上の問いと仮説	18	論文批判：治療における随伴性強化
4	研究方略と変数	19	論文批判：管理スタイルの相対的有効性
5	研究対象として抽出されるサンプル	20	論文批判：絵画についての理解と記憶
6	交絡変数とその統制	21	論文批判：アルコールと運動知覚
7	研究デザインと内的妥当性への脅威	22	論文批判：母性行動
8	変数の基準と基準測度	23	論文批判：帰属の指標としてのユーモア
9	データ分析・考察・結論	24	論文批判：向社会的行動
10	研究の倫理	25	論文批判：さえずりの学習と相互感覚処理
11	論文クリティークのための体系的な方法	26	論文批判：セルフコントロール方略の有効性
12	論文批判：話し方と自己開示	27	文献情報の収集方法
13	論文批判：読字困難における人格・知覚要因	28	文献情報の管理方法
14	論文批判：うつと快・不快経験の効果	29	院生の関心領域における文献レビュー
15	論文批判：再認の正確さに及ぼす文脈の効果	30	院生の関心領域における文献レビュー

【履修上の注意事項】

事前の準備を入念に行うこと。特に論文クリティークにおいては事前に課された論文を精読し、意欲的に関心を持って取り組むことを求める。また各回の内容については講義終了後必ず確認を行うこと。

【評価方法】

レジュメ・口頭発表の内容（50%）と口述試験（50%）により評価する。

【テキスト】

「クリティカルシンキング 研究論文篇」 Julian Meltzoff（著） 中澤潤（監訳）北大路書房 2005
また随時資料を配布する。

【参考文献】

「心理学実験計画入門 改訂版」 Robert L. Solso & Homer H. Johnson（著） 浅井邦二（監訳）星雲社 1999

発達精神保健学研究

担当教員 李 玄玉

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修：発達精神保健学分野

授業形態 研究

単位数 8

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

発達精神保健学研究

担当教員 永田 俊明

配当年次 2年

単位区分 必修：発達精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

各院生の研究テーマに沿った研究に着手し、2年間の継続的な研究から最終目標である修士論文完成までをマンツウマンで取り組む。その中で、科学的研究の在り方、量的・質的研究の方法などを修得していくことを目的とする。

【授業の展開計画】

1. 院生による研究計画作成に関する指導
2. 研究に関するスケジュール調整・作成に関する指導
3. 研究テーマ決定までの先行研究掘り起し、文献検索に関する指導
4. 科学的研究方法（量的・質的・混合）におけるテーマおよび妥当性・信頼性の検証に関する指導
5. 研究条件、倫理的配慮など研究者としての在り方に関する指導
6. 研究結果に関する捉え方、考察の仕方に関する指導
7. 研究論文作成に関する具体的指導

その他、各院生の研究テーマに沿い必要と考えられる指導全般について教授していく。

【履修上の注意事項】

特にない。

【評価方法】

2年間にわたる研究姿勢、研究計画、研究経過、研究手法等および修士論文の内容により評価する。

【テキスト】

使用せず、随時参考書、資料等を提示していく。

【参考文献】

院生の研究テーマに沿った文献紹介、資料提供を適宜行う。

発達精神保健学研究

担当教員 山住 賢司

配当年次 2年

単位区分 必修：発達精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

各人の研究テーマに基づいた研究活動を行い、修士論文を完成させるための研究指導を行う。問題の所在を明確にし、適切な研究手法で研究を遂行し、得られた研究結果に対する論理的な考察を導き出し、科学的な論文として完成させることを目的とする。

【授業の展開計画】

下記に従って研究指導を進める。

1. 自身の関心に基づいて研究テーマを設定する
2. 研究テーマに関連する先行研究の探索を行い文献収集を行う
3. 検証可能な具体的な仮説を立て研究目的を明確にし、研究計画書を作成する
4. 必要に応じて予備研究を行い研究計画を修正していく
5. 研究計画に従い、研究データの収集を行う
6. 得られたデータの整理・分析を行い、仮説の検証をすすめる
7. 得られた結果に基づき論理的な考察を行い、研究の学術的意義を主張する
8. 以上を通じて修士論文を完成させる

【履修上の注意事項】

研究指導に際し、事前準備・指導後の内容確認を求める。

【評価方法】

修士論文の内容（100%）で評価する。

【テキスト】

使用せず、随時資料を配布する。

【参考文献】

院生の研究テーマに関連する文献を適宜紹介する。

発達精神保健学研究Ⅰ

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年～2年

単位区分 必修：臨床・予防領域

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

各院生の研究テーマに沿った研究に着手し、2年間の継続的な研究から最終目標である修士論文の完成までをマンツウマンでの関わりを通して成就させていくことが目的となる。

【授業の展開計画】

1. 院生による研究計画作成に関する指導
2. 研究に関するスケジュール調整・作成に関する指導
3. 研究テーマ決定までの先行研究の掘り起こし、文献検索に関する指導
4. 研究方法・量的・質的研究におけるテーマとの妥当性、信頼性の検証に関する指導
5. 研究条件、倫理的配慮等研究者としての視点等に関する指導
6. 研究結果に対する捉え方、考察に関する指導
7. 研究論文作成に関する具体的指導

その他、各院生の研究テーマに沿った、必要と考えられる指導を行う。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

2年間にわたる研究姿勢や研究計画及び修士論文の内容により評価する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献】

各院生の研究テーマに沿った文献紹介・資料提供を適宜行う。

社会精神保健学特論

担当教員 豊田 保

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修：社会精神保健学分野

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神保健福祉に関するクライアントおよび個人と社会環境との相互作用からなる諸々の病理現象（自殺、虐待、依存症、DV、引きこもり、メンタルヘルスなど）について、エコロジカルな視点から理解を深める。また、上記の病理現象に対するソーシャルワーク・アプローチについての理解を深める。

【授業の展開計画】

精神保健福祉に関する諸課題についての理解と、これら諸課題へのソーシャル・ワークアプローチの方法についての理解を深める。

週	授 業 の 内 容
1	ソーシャル・ワークにおけるクライアント理解の基本的考え方 (90分×5回)
2	精神保健福祉課題の現状についての理解 (90分×5回)
3	精神保健福祉課題への対応策の現状と課題についての理解 (90分×5回)
4	ソーシャルワークにおける各種のアプローチについての学習 (90分×8回)
5	ソーシャルサポート・ネットワークについての学習 (90分×2回)
6	事例研究 (90分×5回)
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

精神保健福祉の諸課題について、問題の現状と対応の動向を一通り把握しておくこと。

【評価方法】

講義中の発言の内容=50%。

期末レポート=50%。

【テキスト】

厚生労働省編『平成28年版 厚生労働白書』全国官報販売協同組合。

講義の進展に応じて提示する。

【参考文献】

講義の進捗状況に応じて、その都度提示する。

社会精神保健学特論

担当教員 西島 衛治

配当年次 1年

単位区分 必修：社会精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

本特論では、精神保健福祉に関わる社会病理現象(自殺、虐待、DV、ホームレス、精神障害、認知症高齢者等)を対象として、その問題発生の社会文化的要因や問題の解明、理解について教授する。主要なねらいは以下の2点である。院生が、①種々の社会病理問題の発生要因や社会文化的要因について理解する。②これらの問題に対する社会的取り組みや多様な社会的支援等について理解し、解決能力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

1. 発達障害(児)者の社会的環境での困難感とその生活支援方法

1) 発達障害の障害特性からの生活困難さと社会的理解の不足の現状

2) 発達障害当事者の自己理解、家族機能への支援、地域の理解の支援、雇用の確保(ジョブコーチの活用)、雇用者の障害理解、就労環境の改善(職員への情報提供、物理的環境の構造化)

3) 発達障害児の支援、学校関係者の理解と協力、sswやscとの協働、教育環境の構造化

2. 認知症(若年・高齢者)当事者の社会的環境での困難感とその生活支援方法

1) 障害特性からの生活困難さと社会的理解の不足の現状

2) 認知症当事者の認知障害(見当識障害)の家族理解、家族機能維持の支援、地域住民の理解への支援、デイサービス環境の改善(職員、物理的環境の構造化)、若年認知来者の就労支援(ジョブコーチの活用)

3) 地域福祉関係者(介護保険関連:地域包括支援センター、介護支援専門員、訪問介護員、訪問看護師など)の理解と協力支援の活用、専門医療機関との連携や協働、住生活環境の整備(構造化など)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分)【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図や表に整理する。(120分)【その他のアドバイス】講義の中でノートを作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

レポート提出を重視する。また小論文試験を評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。資料として、西島衛治の業績論文集を使用する。

【参考文献】

西島衛治著 「図解 自閉症児の教室の構造化」 小林出版

社会精神保健学特論

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修：社会精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

本特論では、精神保健福祉に関わる社会病理現象(自殺、虐待、DV、ホームレス、精神障害、認知症高齢者等)を対象として、その問題発生の社会文化的要因や問題の解明、理解について教授する。主要なねらいは以下の2点である。①種々の社会病理問題の発生要因や社会文化的要因について理解する。②これらの問題に対する社会的取り組みや多様な社会的支援等について理解し、解決能力を身につける。

【授業の展開計画】

以下の事柄に関して教授する。

1. 精神保健福祉の概要
2. 社会構造・コミュニティの変化
3. 家族機能・意識の変化
4. 自殺の動向と社会
5. 虐待の動向と社会
6. DVの動向と社会
7. ホームレスと社会
8. 精神障害の動向と社会
9. 認知症高齢者の動向と社会
10. 社会問題の予防対策
11. 世界の動向

【履修上の注意事項】

講義を受動的に聞くだけでなく、積極的に議論に参加するように、そのためには事前学習が必須である。また、議論の中で指摘された問題点については、次の回までに調べて解決しておくこと。

【評価方法】

レポート50%、口頭試問50%とする。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。適宜、資料を配付する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

社会精神保健学特論

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 1年

単位区分 必修：社会精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

精神保健福祉に関する個と社会の作用からなる病理現象（自殺、虐待、アルコール関連問題、DV、貧困、うつやひきこもり、労働とメンタルヘルス、認知症、多文化とメンタルヘルス）を対象として、その問題発生に社会的文化的要因の理解を深める。このプロセスを通じ、自らの研究における関心事への社会精神保健学的視座からの接近方法を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	精神保健の概要と課題	16	学校教育とメンタルヘルス
2	精神保健の歴史	17	ニート・若年無業者とメンタルヘルス
3	精神障害者観と精神保健活動	18	社会的ひきこもりに対する対策
4	精神の健康とその要因	19	貧困問題とメンタルヘルス
5	社会構造の変化と精神保健	20	労働とメンタルヘルス
6	メンタルヘルスリテラシー	21	うつ病と自殺防止対策
7	ライフサイクルとメンタルヘルス	22	アルコール関連問題
8	精神の健康への関与と支援	23	薬物依存対策
9	精神保健とその予防	24	災害時のメンタルヘルス
10	精神保健に関する行政の役割	25	認知症高齢者に対する対策
11	精神保健に関する専門職種	26	危機や死の受容とメンタルヘルス
12	現代社会とメンタルヘルス	27	多文化とメンタルヘルス
13	家族とメンタルヘルス	28	地域精神保健活動
14	結婚生活とメンタルヘルス	29	メンタルヘルスと人材育成
15	育児とメンタルヘルス	30	諸外国のメンタルヘルス活動

【履修上の注意事項】

毎回のテーマについて事前に学修を行い、問題意識を持って臨むこと。また、講義後に自身の関心領域との関連性について振り返りを行う事。

【評価方法】

講義中のディスカッションの内容・質（50%）、レポート（50%）をもとに評価を行う。

【テキスト】

講義中に適宜提示する。

【参考文献】

チャールズ・A・ラップ, リチャード・J・ゴスチャ著/田中英樹監訳
ストレングスマodel [第3版] リカバリー志向の精神保健福祉サービス

社会精神保健学演習

担当教員 豊田 保

配当年次 1年～2年

開講時期 第2学期～第1学期

単位区分 必修：社会精神保健学分野

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神保健福祉学について、研究課題の選定、研究方法論についての学習、先行研究のレビューを繰り返し行い、研究態度と研究方法および研究発表法を習得する。

【授業の展開計画】

研究課題の選定方法、研究の方法論と進め方、研究内容のアウトプットの方法について習得する。

週	授 業 の 内 容
1	研究方法論について理解する (90分×5回)
2	研究課題の選定について考察する (90分×2回)
3	精神保健福祉の研究課題について理解する (90分×8回)
4	先刻研究をレビューする (90分×10回)
5	自らの研究内容についてアウトプットする (90分×5回)
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

ciniiなどを活用し、専攻研究について把握しつつ、自分なりにレビューしておくこと。

【評価方法】

演習での発表内容によって評価する。

【テキスト】

演習開始時および演習の進展に応じて提示する。

【参考文献】

演習の進展に応じて提示する。

社会精神保健学演習

担当教員 西島 衛治

配当年次 1年～2年

単位区分 必修：社会精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

身体障害者のバリアフリーとの違いを明示しながら、精神障害者のほか認知症高齢者、発達障害者(児)が地域で社会生活が継続できるための生活環境支援の建築計画学と環境心理学的手法をノーマライゼーションの理念に基づいて演習する。そのひとつとして基礎的な設計演習なども導入する。(西島)

【授業の展開計画】

障害者のバリアフリーは、身体障害者が中心になっていた。しかし、脳機能障害など、の精神活動面で、のバリアフリーは、これまで一般化されていない。そこで身体障害者のバリアフリーとの違いを明示しながら、精神障害者のほか痴呆高齢者、発達障害者(児)が地域で社会生活が継続できるための生活環境支援の建築計画学と環境心理学的手法をノーマライゼーションの理念に基づいて演習する。そのひとつとして基礎的な設計演習なども導入する。痴呆高齢者の認知障害(見当識障害)に対応した構造化を用いた生活環境整備の方針を物理的側面とシステムのソフト的側面から求める。また、発達障害には、認知障害のため問題行動が多発することがある。そこで「構造化」を導入する事により社会生活環境を理解しやすくするための生活情報を提供し、地域社会での生活を支援する様々な具体的手法の修得をめざす。(西島)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分)【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図や表に整理する。(120分)【その他のアドバイス】講義の中でノートを作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

講義の質疑応答状況やレポートまたは小論文の試験による

【テキスト】

教科書は、適宜資料を配布する

【参考文献】

西島衛治著「図解 自閉症児の教室の構造化」小林出版

社会精神保健学演習

担当教員 森 信之

配当年次 1年～2年

単位区分 必修：社会精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

精神保健学に関連する国内外の研究論文や学術書を精読し、精神保健学の研究方法、特に統計処理の考え方・技術を習得する。

【授業の展開計画】

まず、文献のクリティカル・リーディングの手法を学び、社会精神保健学に関する種々の研究論文（英文を含む）、あるいは関連学術書を精読する。そして、その内容について深く掘り下げ、批判的に議論していく。各回のテーマは下記の通りとし、講義の最後に次の週で読む論文・学術書を示す。

- ①社会構造の変化
- ②家族機能の変化
- ③自殺問題
- ④虐待問題
- ⑤DV問題
- ⑥社会保障
- ⑦生活保護
- ⑧認知症高齢者
- ⑨知的障害と社会
- ⑩精神障害と社会
- ⑪身体障害と社会
- ⑫地域福祉
- ⑬年金問題
- ⑭福祉先進国との比較
- ⑮世界的情勢

【履修上の注意事項】

精読する論文、学術書は、目を通すだけでなく、事実（データ）、論理の展開、結論の妥当性まで事前に調べておくこと。

【評価方法】

レポート50%、口頭試問50%とする。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、演習で用いる論文資料を事前に配付する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

社会精神保健学演習

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 1年～2年

開講時期 第2学期～第1学期

単位区分 必修：社会精神保健学分野

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神保健学に関する国内外の研究論文や学術書を精読（特に批判的に読む事に慣れる）し、精神保健学の理論、問題把握の方法、研究デザインや研究方法（特に質的研究）について学修を深め、修士論文作成のための研究方法を修得する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	研究とは何か	16	研究デザイン（プロセスと理論）
2	問題意識から研究課題へ	17	研究デザイン（研究設問）
3	問いと仮説	18	研究デザイン（フィールドへの参入）
4	文献検索と先行研究レビューの方法	19	質的データ（半構造化面接）
5	レビューをもとにしたディスカッション①	20	質的データ（データとしてのナラティブ）
6	レビューをもとにしたディスカッション②	21	質的データ（グループインタビュー）
7	レビューをもとにしたディスカッション③	22	質的データ（データ収束法）
8	レビューをもとにしたディスカッション④	23	テキストから理論へ（データの文書化）
9	レビューをもとにしたディスカッション⑤	24	テキストから理論へ（コードとカテゴリー）
10	研究の設計	25	テキストから理論へ（シーケンス分析）
11	仮説の構築と検証の手続き	26	テキストから理論へ（M-GTA①）
12	研究倫理	27	テキストから理論へ（M-GTA②）
13	研究方法論①	28	テキストから理論へ（M-GTA③）
14	研究方法論②	29	テキストから理論へ（M-GTA④）
15	研究方法論③	30	テキストから理論へ（M-GTA⑤）

【履修上の注意事項】

指導教員と打ち合わせを行い、毎回の授業準備を丁寧に行うこと（特に先行研究のレビュー）。また、講義後は次の研究作業ステップに向けて振り返りと準備を行うこと。

【評価方法】

先行研究のレビュー（70%）、講義中のディスカッション（30%）

【テキスト】

講義中に適宜指示する。

【参考文献】

社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン—, 岩田正美ほか（著）
質的研究入門—“人間の科学”のための方法論, Uwe Flick（原著）, 小田博志ほか（翻訳） など。

社会精神保健学研究

担当教員 豊田 保

配当年次 2年

単位区分 必修：社会精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

院生の設定した精神保健福祉課題についての研究内容を修士学位論文として完成させる。

【授業の展開計画】

院生自らが定めた研究テーマについて、研究内容の進捗状況を指導教員に報告し、指導教員や他の教員のアドバイスを受けながら、研究内容をより深めていくことを繰り返す中で、修士学位論文を完成させていく。

【履修上の注意事項】

研究の進展した事項と壁に当たって進展していない事項を整理して、研究指導教員に報告できるようにする。

【評価方法】

研究内容の深まり方と研究の進展状況によって評価される。

【テキスト】

研究の進展に応じて提示する。

【参考文献】

研究の進展に応じてアドバイスする。

社会精神保健学研究

担当教員 西島 衛治

配当年次 2年

単位区分 必修：社会精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

身体障害者のバリアフリーとの違いを明示しながら、精神障害者のほか認知症高齢者、発達障害者(児)が地域で社会生活が継続できるための生活環境支援の建築計画学と環境心理学的手法をノーマライゼーションの理念に基づいて演習する。そのひとつとして基礎的な設計演習なども導入する。(西島)

【授業の展開計画】

障害者のバリアフリーは、身体障害者が中心になっていた。しかし、脳機能障害など、の精神活動面で、のバリアフリーは、これまで一般化されていない。そこで身体障害者のバリアフリーとの違いを明示しながら、精神障害者のほか痴呆高齢者、発達障害者(児)が地域で社会生活が継続できるための生活環境支援の建築計画学と環境心理学的手法をノーマライゼーションの理念に基づいて演習する。そのひとつとして基礎的な設計演習なども導入する。痴呆高齢者の認知障害(見当識障害)に対応した構造化を用いた生活環境整備の方針を物理的側面とシステムのソフト的側面から求める。また、発達障害には、認知障害のため問題行動が多発することがある。そこで「構造化」を導入する事により社会生活環境を理解しやすくするための生活情報を提供し、地域社会での生活を支援する様々な具体的手法の修得をめざす。(西島)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分)【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図や表に整理する。(120分)【その他のアドバイス】講義の中でノートを作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

講義の質疑応答状況やレポートまたは小論文試験による

【テキスト】

教科書は、適宜資料を配布する。資料として、西島衛治の論文業績集を使用する。

【参考文献】

西島衛治著 「図解 自閉症児の教室の構造化」 小林出版

社会精神保健学研究

担当教員 森 信之

配当年次 2年

単位区分 必修：社会精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

自らの専門性と問題意識に基づいて、自ら精神保健福祉課題についての研究論文テーマを設定し、深く調査・考究を経て、修士論文として書き上げることを目的とする。

【授業の展開計画】

自らの研究テーマに沿って研究を進め、論文を作成するために、研究方法、調査方法、データ分析方法、文献検索技術、倫理的考え方、論文滴表現技術等の一連の指導を行なう。
それと並行して、研究の進み具合を確認しながら、研究を深めていくための課題を課す。

【履修上の注意事項】

事前に研究の進捗状況を整理してまとめておくこと。問題意識を持って臨むこと。講義後すぐに課された課題に対して調べ、解決しておくこと。

【評価方法】

研究討論における内容（オリジナルな論点20%、論理的考え方20%、明確で適切な表現20%）、および研究テーマに関する課題40%で評価を行なう。

【テキスト】

各自の研究テーマに即した資料を適宜配布する。

【参考文献】

研究の進展に応じて、適宜指示する。

社会精神保健学研究

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 2年

単位区分 必修：社会精神保健学分野

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

研究領域に関する問題意識を念頭に、研究課題の決定、研究デザイン作成、適切な調査方法の検討、調査実施（ブレ調査含む）、データ分析、論文執筆、等の各過程における具体的手順と考え方を修得し修士論文作成を行う。

【授業の展開計画】

- 1～10. 文献レビューのまとめ、研究デザインの決定（特論・演習の振り返り作業を含む）
- 11～20. 調査研究のための準備（調査対象や内容の検討）
- 21～40. 調査の分析とまとめ（特に質的研究の場合はデータ解釈のためのスーパービジョンを丁寧に行う）
- 41～50. 修士論文執筆のための院生・教員間ディスカッション（論理的考察）
- 51～60. 論文内容の検討（残された課題の整理と研究課題の発展性）

【履修上の注意事項】

研究スケジュールに沿い、可能な限り計画的に調査・分析・論文作成を行うように。研究指導時間を有意義に活用すべく、事前の準備・振り返りを丁寧に行うこと。

【評価方法】

修士論文 70%
作成過程におけるディスカッション 30%

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。